

老害ナルシズム経営者の怒濤の暴走

長期独裁体制への病的執着が会社を滅ぼす



JR東海にいま代表取締役として君臨する葛西名誉会長。この事実は社員にとってこの上ない不名誉と言わざるを得ない。

4千近い上場企業の中でこのポストを置くのは、わずか4社のみ。しかも4社とは、創業一族の出身者のみである。

オーナー企業でもなく、しかも国民の財産を受け継ぎ高度な公共制を求められる企業としては、「異例中の異例」その厚かましさは異常なまでだ。

そして独裁者葛西氏による手前勝手な道楽的リニア事業がもうどうにも止まらない。自民党安倍一強の虎の威を借りて、ただ同然の利息による3兆円もの財投までこぎ着けた。

しかも驚くことに無担保だ。そもそも全額自己負担との方針に国が「JR東海の採算性に問題なし」と判断されたからこそ認可された事業ではなかったのか？

まったくの「騙し討ち」とはこのことである。そしてこの人間の厚かましさはここから真骨頂となる。

暴走するリニア事業はオール日本も犠牲にする！

日経ビジネスのインタビューでは、「担保は東海道新幹線の輸送力です。リニアを作るために使えば国が口を出さず謂われはないし、我々も口を出される謂われもない！」と公的資金への感謝どころか、国民を人質にとるような発言へと？

背景には、自己愛から自身の目の黒いうちに、リニア事業を自らのレガシー遺産として残したいという思い上がった思想からなるようだ。（有力ビジネス誌）

老いても止まないナルシズムは、いつのまにか儲けよりも、日米同盟を重視したトランプ米国への「新幹線とリニアの献上」へと繋がっていく。その後ろ盾となる財源は、黒い人脈による国際協力銀行や年金積立管理独立行政方法人とも言われている。（ビジネス誌）

自らのレガシー作りのためには、年金財源（国家破綻）をも巻き込む厚かましさ。老害というよりかは国家反逆的だ。

情けないのは「ペイ発言」で致命傷を負った現山田会長や天皇葛西へのご機嫌取りで茶坊主に徹する柘植社長などの平身低頭ぶりだ。不甲斐ない極みだ。

このように超保守系思想の葛西・安倍首相の二人三脚による破滅型事業は、残土の行き場所さえ未解決のまま、着工されいまや米国まで輸出しようとしているのです。

どうか皆さん意識して下さい。「この会社が倒産するまでカウントダウン」されたということ。